

西胆振地域連携研修・法人内研修 実施報告書

| | |
|------------|-----------------|
| 研修名 | 摂食嚥下セミナー |
|------------|-----------------|

| | |
|------------|---------------------|
| 対象者 | 食事支援に関わる専門職 |
| 日程 | 平成28年11月8日(火) |
| 会場 | ふる里の丘総合福祉館 1階ふれあい広場 |



| | |
|---|--|
| 研修のねらい | |
| 専門職が集い、そのネットワークを通じて研究を重ね、それぞれの職種以外の知識まで吸収することで、一人ひとりが摂食嚥下障害についてプロフェッショナルになることを目的として「室蘭・登別食介護研究会」を主宰されている、みながわ往診クリニック・皆川夏樹先生にお越しいただき「サルコペニア」「プロセスモデル」について、ご講義頂く。 | |

| 研修プログラム | | | |
|----------------------|------------------------|--------------------------|---|
| 1日目 | 研修科目 | 講師 | 研修内容 |
| 12:30~12:50 | 受付 | | |
| 12:50~13:00 | オリエンテーション | | |
| 13:00~14:30 (90分) | 講義①「サルコペニア徹底追及！」 | みながわ往診クリニック 院長 皆川夏樹 氏 | サルコペニア、そして関連概念である「フレイル」「ロコモティブシンドローム」「廃用症候群」について、その捉え方を整理した上で「どのように衰え、最期を迎えることが良いか」を考えます。 |
| 14:30~14:40 | | | 休憩 |
| 14:40~16:00 (80分) | 嚥下の新しい考え方～プロセスモデルについて～ | みながわ往診クリニック 院長 皆川夏樹 氏 | 従来提唱されてきた、嚥下の4期-5期モデルから、「咀嚼中での食物の咽頭侵入は異常所見とは言えない」というプロセスモデルが提唱される中、その検証を行った結果について、VF検査映像などを交えながら確認し、今後の摂食嚥下についての考え方について、学びます。 |
| 16:00 | 終了 | | |



| | |
|--|--|
| 研修の様子 | |
| 看護師、リハ担当職、管理栄養士をはじめ、食事支援に関わる専門職約50名が参加された。 | |
| 「サルコペニア徹底検証」では、サルコペニア、そして、関連概念として「フレイル」「ロコモティブシンドローム」「廃用症候群」について、整理ながら学ぶことが出来た。 | |
| 「プロセスモデル」では、従来の摂食嚥下に関する考え方を覆す理論を検証に基づいて説明を受けた。このモデルを理解した上で、どう食事支援に結びつけていくか、最期まで口から食事を摂っていただくかということに参加した専門職は真剣に考えていた。 | |